



## 著作目録（片野達郎）

著者	東北大学史料館
号	451
発行年	1991-03
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10097/00065268">http://hdl.handle.net/10097/00065268</a>

片野達郎教授著作目録

平成三年三月  
東北大学記念資料室  
(著作目録第四五一号)

片野達郎教授略歴



昭和二年六月二十三日  
昭和九年四月  
昭和十五年三月  
昭和十五年四月  
昭和二十二年三月  
昭和二十二年四月  
昭和二十四年三月  
昭和二十四年六月  
昭和二十九年三月  
昭和二十九年四月  
昭和三十一年三月  
昭和三十一年四月  
昭和三十四年三月

神奈川県[ ]に生まれる。  
鎌倉市御成尋常高等小学校入学。  
同校卒業。  
神奈川県立湘南中学校入学。  
同校卒業。  
官立弘前高等学校文科乙類入学。  
同校第一学年修了（学制改革のため）。  
東北大学文学部国語国文学科入学。  
同学部卒業。  
東北大学大学院文学研究科修士課程（国文学国語学専攻）入学。  
同課程修了。  
同博士課程進学。  
同課程単位修得退学。

昭和三十四年四月  
 昭和三十六年三月  
 昭和三十六年四月  
 昭和三十八年四月  
 昭和三十九年四月  
 昭和三十九年十二月  
 昭和四十六年六月  
 昭和五十一年三月  
 平成三年三月

東北大学文学部助手

同 辞職

東北大学川内分校講師（非常勤）。

同 講師（常勤）。

東北大学教養部講師。

東北大学教養部助教授。

同 教授。

東北大学に提出の学位請求論文「平安・鎌倉時代における文芸と絵画の相関性の研究」により文学博士（学位記番号 文第三〇号）の学位を受く。

停年により東北大学を退官。

昭和四十六年から平成三年までの間に左記の大学学部・大学院文学研究科に併任されたことがある。

東北大学文学部 東北大学大学院文学研究科 山形大学教養部

岩手大学人文社会科学部

昭和四十年から平成三年までの間に、左記の大学の非常勤講師を委嘱されたことがある。

三島学園女子短期大学 東北工業大学 宮城学院女子大学文学部

盛岡大学文学部



# 著 作 目 録

## 一 著 書

金槐集

新 典 社

昭和四七年四月

日本文芸と絵画の相關性の研究

笠 間 書 院

昭和五〇年一月

輪王系譜と仙台輪王寺略記

輪 王 寺

昭和五九年一〇月

齋藤茂吉のヴァン・ゴッホ

講 談 社

昭和六一年二月

日本文芸論叢

新 典 社

平成三年二月

## 二 共 著 書

校本洞院撰政家百首とその研究（安井久善と共著）

桜 楓 社

昭和四二年一月

校柱詞花和歌集（井上宗雄と共著）

笠 間 書 院

昭和四五年六月

新古今和歌集 山家集 金槐和歌集

鑑賞日本古典  
文学 第一七卷

角 川 書 店

昭和五二年三月

（有吉保・松野陽一と共著）

三 編 著 書

綜合研究 中世の文化

角川書店

昭和六三年三月

正統と異端——天皇・天・神——

角川書店

平成三年二月

日本文芸思潮論

桜楓社

平成三年二月

四 共 編 著

書陵部蔵 躬恒集（峯岸義秋・渋谷孝と共編）

文理図書出版社

昭和三六年一〇月

私家集伝本書目（和歌史研究会編）

明治書院

昭和四〇年一〇月

私撰集伝本書目（和歌史研究会編）

明治書院

昭和五〇年一月

私家集大成 中古Ⅰ

明治書院

昭和四八年一二月

△躬恒集・忠岑集・宗千集・深養父集 担当▽

私家集大成 中世Ⅰ

△西行聞書集・殘集・守覚法親王集・式子内親王集 担当▽

明治書院

昭和四九年七月

私家集大成 中世Ⅱ

△再昌草（鷹司本） 担当▽

明治書院

昭和五一年一二月

新編国歌大観 第三卷△躬恒集・忠岑集 担当▽

角川書店

昭和六〇年五月

新編国歌大観 第四卷△建保内裏名所百首 担当▽

角川書店

昭和六一年五月

八戸市立図書館国書分類目録 一

八戸市立図書館

昭和五三年三月

八戸市立図書館国書分類目録 二

八戸市立図書館

昭和五六年三月

八戸市立図書館国書分類目録 三

八戸市立図書館

昭和五七年三月

## 五 論 文

源氏物語における絵画性の一考察

——屏風絵による自然描写について——

『文芸研究』第二三集

昭和三一年七月

淡絵考

——泥（デイ）と淡（タム）について——

『文化』第二一卷第四号

昭和三二年七月

粉河寺縁起絵巻絵詞の研究

——絵詞の文芸性について——

『文芸研究』第二八集

昭和三三年三月

源 俊頼における和歌と絵画との交渉

——その叙景歌について——

『文学語学』第一〇号

昭和三三年一二月

新古今集における叙景歌の一考察

——装飾的表現の系譜について——

『文化』第二三卷第三号

昭和三四年一月



『最勝四天王院名所障子和歌』は偽書か

『文学語学』第二五号

昭和三十七年九月

『玉葉集』『風雅集』の叙景歌

『文芸研究』第四二集

昭和三十七年九月

——その写実的性格と絵画との関係——

平安末期における『源氏物語』享受の一形態

『文化紀要』第二二集 東北大学教養部

昭和三十九年三月

——『源氏物語絵巻』の考察——

中世における「自讃」の意味について

『東北大学教養部紀要』第一号

昭和四〇年三月

——『自讃歌』の研究(上)——

平安初期の屏風歌の性格

『文学語学』第三五号

昭和四〇年三月

「人麿影具」の変遷とその和歌史的意義

『東北大学教養部紀要』第四号

昭和四一年二月

茂吉「地獄極楽図」歌考

『群山』第二二巻第一号

昭和四二年一月

西行『聞書集』の「地獄絵をみて」について

『和歌文学研究』第二二号

昭和四二年四月

和歌と絵画

『和歌の世界』(桜楓社)

昭和四二年一月

芥川龍之介『蜘蛛の糸』出典考

『東北大学教養部紀要』第七号

昭和四三年一月

——新資料『困果の小車』の紹介——

『曾禰好忠集』の地名について

『瞬星』第一四号

昭和四三年一二月

東北大学 三春秋田家旧蔵本と秋田家について  
附属図書館

——(付) 国文学関係現存伝本書目・古筆軸物冊物

以下総帳(享保六年) 翻刻・歌書目録(享保八年)  
翻刻

『東北大学教養部紀要』第九号

昭和四三年一二月

茂吉と絵画(一) —— その画業と文芸 ——

『群山』第二五卷第一号

昭和四五年一月

茂吉と絵画(二) —— 茂吉の百穂評 ——

『群山』第二五卷第二号

昭和四五年二月

宗祇注『堀河院後百首抄出』(東北大学附属図書館教養  
部分館蔵) とその研究

—— 付、源 兼昌論 ——

『東北大学教養部紀要』第一一号

昭和四五年三月

茂吉と絵画(三) —— その絵画鑑賞 ——

『群山』第二五卷四・五号

昭和四五年五月

茂吉と絵画(四)

—— 「アララギ」表紙画の解説 ——

『群山』第二五卷第六号

昭和四五年六月

茂吉と絵画(五)

—— ヨーロッパの世界と東洋の世界 ——

『群山』第二五卷第七号

昭和四五年七月

茂吉と絵画(六) —— ゴッホと茂吉 ——

『群山』第二五卷第八号

昭和四五年八月

茂吉と絵画(七)

—— 「地獄極楽図」歌再考(その一) ——

『群山』第二五卷第一〇号

昭和四五年一〇月

齋藤茂吉論

—— 絵画を通して見たその抒情精神 ——

『国文学言語と文芸』第七三号

昭和四五年一月

茂吉と絵画（八）

—— 「地獄極楽図」歌再考（その二） ——

『群山』第二六卷第一号

昭和四六年一月

齋藤茂吉「地獄極楽図」歌綜考

『東北大学教養部紀要』第一四号

昭和四六年三月

茂吉と絵画（九）

—— 芥川龍之介と茂吉（その一） ——

『群山』第二六卷第三号

昭和四六年三月

茂吉と絵画（一〇）

—— 芥川龍之介と茂吉（その二） ——

『群山』第二六卷第四号

昭和四六年四月

文芸と絵画の相关性

『文学語学』第六〇号

昭和四六年六月

茂吉と絵画（一一）

—— 日本画と西洋画 ——

『群山』第二六卷第七号

昭和四六年七月

土屋文明の茂吉観

『群山』第二七卷第三号

昭和四七年三月

茂吉と地獄

—— 地獄極楽図一連をめぐって ——

『国文学』第一七卷第一〇号

昭和四七年八月

平安期屏風歌の消長

『東北大学教養部紀要』第一九号

昭和四九年三月

東国文学園

——ひとつの実朝論——

茂吉と大観

治者と誌心——実朝

齋藤茂吉の写生説

——「生（しやう）うつし」論の検討——

文学史と美術史

文芸・絵画における美意識の展開

——日本史の峠、中世、よりの展望——

茂吉と西洋美術

実朝における「寛平以住」の意味

『近代秀歌』とその実践

——定家と実朝——

『金槐和歌集』評釈（一）

——『新勅撰和歌集』入集歌の研究——

『国文学』第二〇巻第七号

昭和五〇年六月

『北住敏夫教授  
退官記念 日本文芸論叢』

昭和五一年四月

（笠間書院）

『国文学』第二一巻第一号

昭和五一年九月

『東北大学教養部紀要』第二五号

昭和五二年二月

『鑑賞日本古典文学別巻 日本文学史  
入門』（角川書店）

昭和五三年三月

『季刊日本史想史』9

昭和五三年一一月

『齋藤茂吉研究』（右文書院）

昭和五五年六月

『国語と国文学』第五七巻第一号

昭和五五年一一月

『短歌』第二八巻第一号

昭和五六年一月

『東北大学教養部紀要』第三三号

昭和五六年二月

『金槐和歌集』評釈(二)

——『新勅撰和歌集』入集歌の研究——

「新古今和歌集」の表現の魅力

茂吉とゴッホ

王朝和歌の流れ

屏風歌の系譜

「いまひとたびの」

——女流歌人和泉式部——

草花表現にみる文学的影響

うつつ(現) かんねん(観念)

じゅっかい(述懐)

茂吉と実朝

『東北大学教養部紀要』第三六号

昭和五六年一二月

『新古今和歌集・古文研究シリーズ12』  
(尚学図書)

昭和五七年五月

『短歌』第二九卷第五号

昭和五七年五月

『王朝の歌と人——古今から新古今へ——』(東北大学開放講座)

昭和五七年九月

『同』

昭和五七年九月

『同』

昭和五七年九月

『美術と草花』 いけばな美術全集一  
○(集英社)

昭和五七年一月

『講座日本語の語彙⑨』 語誌Ⅰ(明治書院)

昭和五八年一月

『講座日本語の語彙⑩』 語誌Ⅱ(明治書院)

昭和五八年四月

『論集 明星とアララギ』 和歌文学  
会 和歌文学 8 (笠間書院)  
の世界

昭和五八年四月

『金槐和歌集』評釈（三）

——『新勅撰和歌集』入集歌の研究——

中世和歌と茶の美意識

卑俗なるものと新風

——『東北院職人歌合絵』の成立——

『輪王系譜』の研究（一）

『金槐和歌集』における東と西

——実朝における王朝和歌の受容と変容——

『白讃歌』中の西行の歌

——自然詠と恋の歌——

描かれた『奥の細道』

『輪王系譜』の研究（二）

『輪王系譜』の研究（三）

伊達家と曹洞宗

——仙台輪王寺史の一側面——

『東北大学教養部紀要』第三九集

昭和五八年一二月

『茶道聚錦』茶の湯の成立（小学館）

昭和五九年六月

『季刊日本思想史』23

昭和五九年七月

『東北大学教養部紀要』第四一号I

昭和五九年一二月

『文化における受容と変容』

（角川書店）

昭和六〇年二月

『国文学』第三〇巻第四号

昭和六〇年四月

『みちのく伝統文化』1古美術編（小学館）

昭和六〇年九月

『東北大学教養部紀要』第四三号

昭和六〇年一二月

『東北大学教養部紀要』第四五号

昭和六一年一二月

『伊達政宗 文化とその遺産』（里文出版）

昭和六二年九月

中世の様式

飯田蛇笏と岡崎義恵

和歌——『高野切』の仮名用字——

紺の最上川

——齋藤茂吉論——

齋藤茂吉「童馬山房書屋」小考

和歌における正統意識の継承——源 実朝——

六 小論・評釈・資料紹介・書評・学界時評・その他

『狩野文庫』和歌関係目録(一)(二)(三)

躬恒とその家集(特集「私家集のすべて」)

東北地方歌書伝本書目稿(その一)(佐佐木忠慧と共編)

定家『詠十五首和歌』の新資料

『総合研究 中世の文化』(角川書店)

『雲母』第七四卷第六号

『漢字講座5 古代の漢字とことば』  
(明治書院)

『国語と国文学』第六十六卷第四号

『東北大学教養部紀要』第五四号

『正統と異端——天皇・天・神——』  
(角川書店)

『和歌史研究会会報』第7・8・9号

『国文学』第一〇卷第一二号

『日本文学ノート』第四号

『和歌史研究会会報』第三三号

昭和六三年二月

昭和六三年六月

昭和六三年七月

平成元年四月

平成二年一二月

平成三年二月

昭和三十七年七月・  
一〇月・三十八年五月

昭和四〇年一〇月

昭和四四年二月

昭和四四年三月

素性法師 凡河内躬恒

『和歌文学 講座10 秀歌鑑賞』（桜楓社）

昭和四四年八月

東北地方歌書伝本書目稿（その二）（佐佐木忠慧と共編）

『日本文学ノート』第五号

昭和四五年三月

白秋と新古今

『国文学』第一五卷第一三号

昭和四五年一〇月

茂吉とゴッホ

『河北新報』

昭和四五年一一月六日

新資料紹介『愚見抄』（東北大学附属図書館蔵）  
（三春秋田家旧蔵）

『文芸研究』第六六集

昭和四五年一二月

三春秋田家旧蔵『愚見抄』について

『和歌史研究会会報』第四〇号

昭和四五年一二月

山部赤人——生と美学——

『国文学』第一六卷第一五号

昭和四六年一月

東北地方歌書伝本書目稿（その三）（佐佐木忠慧と共編）

『日本文学ノート』第六号

昭和四六年三月

八戸藩南部家資料の価値

『デリーー東北』

昭和四七年一月二八日

白秋・夕暮・茂吉

『河北新報』

昭和四七年二月五日

——印象派絵画摂取の様相——

「八戸南部家資料」について

『和歌史研究会会報』第四七号

昭和四七年一〇月

怪異の季節——「源氏物語」の「もののけ」——

『河北新報』

昭和四八年八月一七日

西行の歌一首

『和歌史研究会会報』第五一号

昭和四八年一一月



凡河内躬恒 壬生忠岑 坂上是則 (百人一首評釈一覽)

書評 横井博『印象主義の文芸』

学界時評「中世」

学界時評「中世」

学界時評「中世」

西行 藤原俊成 (鑑賞・日本の名歌名句一〇〇〇)

学界時評「中世」

金槐和歌集 (『日本古典文学研究必携』)

江戸コレクション (下)

美術余話(最澄と空海・紫式部の取材源・京の都と火事・  
後鳥羽院と実朝Ⅰ・後鳥羽院と実朝Ⅱ・不定の美学・  
日本人の目・東国芸術圈の構想・東洋画と西洋画・日  
本の妖怪たち・洛虫洛外図の構図・龍の絵)

新刊紹介 赤羽学『校註俳諧御傘』

『歴史読本』第一九卷第一号

『語文』第四〇輯

『国文学』第二二卷第一四号

『国文学』第二二卷第八号

『国文学』第二二卷第一四号

『国文学』第二二卷第一五号

『国文学』第三三卷第六号

別冊『国文学』特大号

『河北新報』

『週刊朝日百科 世界の美術』108〜120

昭和四九年一月

昭和五〇年三月

昭和五一年一月

昭和五二年五月

昭和五二年一月

昭和五二年一月

昭和五三年五月

昭和五四年一月

昭和五三年二月一六日

昭和五五年四月〜七月

『文芸研究』第九五集

昭和五五年九月

明治・大正の文芸におけるヨーロッパ印象主義の受容

『総合研究 文化における受容と変容』  
(東北大学教養部)

昭和五五年三月

頼朝 実朝 明恵 (「古歌を読む」)

『国文学』第二九卷第二号

昭和五九年二月

短歌における「しきたり」「名」

『短歌研究』第四一卷第六号

昭和五九年六月

仙台 (宮城野) 松島 平泉

『国文学』第三〇卷第一四号

昭和六〇年一月

中世 —— その転換期の様式 ——

『総合研究 中世の文化』

昭和六一年三月

源 実朝 (「作家の謎辞典」)

『国文学』第三一卷第一号

昭和六一年九月

源 実朝の和歌における正統意識

『東アジアにおける正統意識の研究』  
(東北大学教養部)

昭和六四年三月

和歌における時間

『文化における時間意識の研究』  
(東北大学教養部)

平成元年三月

歌の心絵の心十選 (鳥毛立女屏風・源氏物語絵巻 御法

『日本経済新聞』

平成元年三月七日～二〇日

巻・佐竹本三十六歌仙 柿本人麿像・西本願寺本三十

六人集 重之集・地獄草紙 雲火霧処・伊勢新名所歌

合絵巻 岡本の里・三十二番職人歌合 表法絵師・尾

形光琳 燕子花図・伊達政宗賛 菊花図・齋藤茂吉

牡丹図)

古書との出会い

『東北  
地区大学図書館協議会誌』第四一号

平成二年三月

“Sho” as the Reflection of Human Mentality

『福祉心理学論集』第五号

平成二年九月

千載集（新・古典文学研究必携）

別冊『国文学』第四〇号

平成二年十一月

※このほか、『国語学研究辞典』（明治書院）、『和歌大辞典』（明治書院）、『日本文学史辞典』（京都書房）、『万有百科大辞典』（小学館）『日本古典文学大辞典』（岩波書店）等の辞書の諸項目を執筆。